

大学入試

第1回

日本史最前線

講師：石川晶康（河合塾講師）

つぎのA～Eの文章を読んで、後の設問に答えなさい。

- A** 縄文時代には道具や技術的な関係から大きな構築物を築くことは難しかったものと考えられてきたが、近年の発掘調査の進展によって、その考えは改める必要があることが分かってきた。たとえば、北陸地方の **a** 遺跡やチカモリ遺跡に見られる環状巨木柱列は巨木遺構と呼ばれ、縄文人がそのような巨木を用いて建造物を築く技術や能力を持っていたことを明らかにした。1990年代に調査が始められた青森市郊外の **あ** 遺跡でもこのような巨木遺構が見つかっていることは有名である。
- B** 縄文時代晩期から弥生時代にかけて大陸から水稻耕作の技術と共に金属器が伝わると、土木建築技術も大きく発展したのと考えられる。各地に見られる環濠集落に伴う大きな溝などはそれを可能にする道具の発達や技術の進化を示唆している。この環濠集落の例としては **b** 遺跡が、有名である。この遺跡は朝鮮半島から北部九州への海上の通り道に位置する **い** 島にある。 **b** 遺跡が立地する丘陵の北西約 300m の低湿地からは礫石を積み上げた船着場と考えられる遺構も検出されている。その構築技術は高度であり、ここにも弥生人の建築技術の能力の高さが示されている。
- C** 古墳時代には鉄器の普及がさらに進み、大規模な古墳、運河状の水路、建物の跡などがそのことを示している。建物もその種類がさまざま、複雑な構造であったことが分かる。そのことを示す例としては群馬県に

ある **c** 出土の家形埴輪や奈良県佐味田宝塚古墳出土の家屋文鏡があげられる。この鏡には入母屋づくりの屋根をもった竪穴家屋・平地家屋・**う** 家屋と、切妻の屋根をもつ **う** 倉庫の図形が表されており、樹木、梯子、キヌガサなども添えられている。これらの埴輪や鏡は古墳時代の建築技術や建物の形を知る上で建築史学の重要な資料となっている。

D 6世紀末から7世紀になると畿内を中心に多くの寺院が建てられるようになり、この時代の土木・建築技術がさらに進んだことが分かる。特に何層にも重なった屋根をもつ塔はこれまでにない高度な建築技術を必要としたものと考えられる。また、寺院の建築に伴う他の技術も発展することになり、仏像や仏具の鋳造、瓦の焼成など当時の技術の粋を集めて寺院は建築されたものと考えられる。これらの技術は日本各地にもたらされることになり、7世紀の後半から8世紀にかけて東国にも寺院が建てられることになる。天下三 **え** のひとつが設けられた下野 **お** もその一つであるが、この寺院跡からは弘福寺とも呼ばれる **d** で使われていた軒丸瓦の文様と同型式の複弁八葉の **e** をもつ瓦が出土している。このように建築技術を中心とする種々の技術は日本各地に波及することになったのである。

E 寺院の建築を通じて各地に波及した種々の技術はさらに広範な地域に波及することになる。東北地方には寺院とともに中央政権の拠点として城柵が築かれ、そこを通じて蝦夷社会に中央の文化が流入していった。城柵内には政庁をはじめとする建物群が建ちならんでいた。時代が下るに従って城柵はより北方に造営されるようになる。平安初期に築かれた胆沢城には多賀城に置かれていた **f** が移された。この多賀城は **か** の反乱によって焼亡したとされるが、こうしてみると奈良・平安時代においても、地方への種々の技術の伝播が土木・建築技術を中心に行なわれていたことがうかがえる。

問 1 A～Eの文章の空欄 **あ** ～ **か** に当てはまる語句を漢字で答えなさい。

問 2 A～Eの文章の空欄 **a** ～ **f** に当てはまる語句を下の語群から選び、その記号をマークしなさい。

《語 群》

- | | | | |
|-------------|----------|----------|---------|
| (ア) 石塚山古墳 | (イ) 法隆寺 | (ウ) 忍冬文 | (エ) 山田寺 |
| (オ) 吉野ヶ里 | (カ) 鎮西奉行 | (キ) 川原寺 | (ク) 蓮華文 |
| (ケ) 西都原古墳 | (コ) 原の辻 | (ク) 大 湯 | |
| (シ) 赤堀茶臼山古墳 | (ス) 板 付 | (セ) 鎮西探題 | (ツ) 是 川 |
| (タ) 宝相華文 | (チ) 真 脇 | (ツ) 鎮守府 | |

(青山学院大学・文学部/08年)

第1回 解答

問1 あ—三内丸山 い—壱岐 う—高床 え—戒壇 お—薬師寺
か—伊治皆麻呂

問2 a—(チ) b—(コ) c—(シ) d—(キ) e—(ク) f—(ツ)